

こうとう民報

2014年 7月号 117

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行 江東区民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155 FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/



【写真】労働者と業者のみならず、連帯しアピールしました。



今年度の国民健康保険料の値上げの通知が各戸に届き、10日間で2700件を超える問い合わせが江東区の担当課に寄せられました。
「何故こんなに上がっているのか」「どういう計算か」と、毎年の値上げで高すぎる保険料への悲鳴ともいえる住民の声ですが、担当課は「昨年よりも（件数が）減っていますよ」と涼しい顔です。

7月5日、墨田区錦糸公園で開かれた「賃金の底上げ7・5東部パレード」。東部（江東、墨田、江戸川、足立、葛飾、荒川区、台東区）地域の労働組合や民主団体などが参加し集会とデモ行進がおこなわれました。この集会には、100名が、集会後の駒形親水公園までのデモ行進に沿道からの飛び入り参加で150名にひろがりしました。

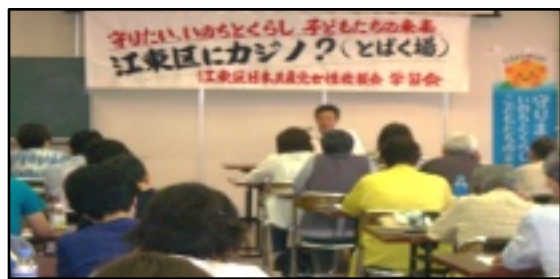
「消費税増税を撤回せよ！」
「炎天下のなか開かれた集会に、最低賃金1000円以上を実現しよう」「公契約条例を制定しよう」「集団的自衛権反対」「戦争をする国にするな！」など要求が書かれたのぼりやプラカード、組合旗を手に労働者や業者のみならずが参加しました。

主催者あいさつでは、安倍自公内閣は社会保障拡充の名目で4月から消費税を8%に増税し大企業には減税、来年から10%などともんでもない。消費税増税撤回の声を上げようと呼びかけました。

また国会では労働法制の改善に、幅広い団体の運動で撤回・廃案に追い込んだが引き

7月6日、「江東区にカジノ？」のテーマで江東区日本共産党女性後援会が学習会をおこないました。

講師の坂本隆裕弁護士（東部法律事務所）は、日本において現在は法律でカジノが禁止されていること。解禁された韓国ではカジノの近辺に賭場が並びホールのレスも多いこと。



江東区にカジノ？ 日本共産党女性後援会が学習会

地域経済活性化が言われているが儲けは外国資本に持っていかれ、ギャンブル依存症が今でも多い日本では、その対策費などにお金がかかることなど、「百害あって一利なし」の実態が報告されました。

また畔上三和子都議、きくち幸江区議から、都区内において共産党を除く超党派で江東区臨海部にカジノを誘致する動きが、すでに地図にまでなっている状況が報告されました。

毎年繰り返される保険料の大幅値上げの理由の第一は、医療費全体にかかる国庫負担

《国保料通知に2700件超の問い合わせ》

国と江東区は国民の医療を守る責任を果たせ

均等割の比率を変えたことにより、低所得で世帯人数が多い人ほど、保険料負担が大変になる仕組みが作られてま

先の国会では「医療・介護総合法案」がまとまな審議もなまま可決され、ますます自己負担強化とベッド数半減などの給付減が決められてしまいました。
憲法25条は「健康で文化的な最低限の生活」を国民の権利として保障し、国の責任を明確にしています。この否定につながる医療制度の改悪を許さず、誰もが安心して受けられる医療制度に国と江東区が責任を果たすことを求めて、みなさんと力を合わせます。

潮騒

台風8号は、特別警戒警報にもかかわらず局地的豪雨による土石流などで、死傷者や家屋倒壊を出す災害をもたらしました。日本では、この百年に気温が1度上昇して、大気中の水蒸気が7%増えたのが大雨の原因になっている。地球の環境問題がいま切実な課題となっているのに、世界では絶え間のない血なまぐさい紛争で、難民も5千万人を超えました。この時節に日本の首相はオセアニア三国を訪問して、集団的自衛権行使容認を鼓吹してまわります。口を開けば「国民の命と財産を守る」と繰り返しながら、人命も資源も浪費して環境を破壊する戦争への道をすすみます。その本音は、「日米（軍事）同盟を革新的に強化する」（小野寺防衛相）ことです。さらに、財界いなり武器輸出解禁の「防衛装備移転三原則」にもとづく今春の訪欧の成果は、6月の武器国際展示会への三菱重工など軍需産業13社の初参加でした。「抑止力」といって国民を欺いている軍拡の「積極的平和主義」の真実は「死の商人」です。しかし憲法9条は生きています。閣議決定直後から内閣支持率は急落しました。歴代政権の幹部が「赤旗」に登場、地方議会や地方新聞に痛烈な批判・抗議も続発しています。この歴史的暴挙を阻止するために、安倍政権打倒の国民的運動をよびかけた日本共産党は創立92周年を迎えました。

「小名木川のにぎわい」



明治末年の小名木川

1971(明治4)年、常盤町万年橋近くに設立された利根川丸会社は、小名木川に初めて蒸気船を航行させました。「利根川丸」は左右に水車のある外輪船で、万年橋から小名木川、中川、船堀川をへて江戸川をさかのぼり、関宿から利根川へ出る川蒸気飛脚船とよばれ、隔日に就航しました。

次は、翌年設立された内国通運会社(日本通運の前身)です。内国通運は江戸川や利根川の浅瀬をさらって水深を深くし、1877(明治10)年5月から50トンの外輪式蒸気船「通運丸」を就航させ、発着所は隅田川の両国と蛸殻町にありました。その航路は、利根川丸と同じく関宿に出て、筋堀町、佐原、銚子へ下り茨城の銚田に行くものと、栃木の生井河岸へ出るものでした。

明治40年刊行の「東京案内」に「内国通運会社汽船あり。小名木川より銚子、北浦、西浦、土浦、上下利根川等へ航行するものにして、富川町(森下5丁目)に支店、東元町(高橋)に荷扱所を置く」と紹介されました。

このほか、銚子汽船会社は「銚子丸」を小名木川を通過して利根川水系に就航させ、東京汽船会社は小型の通運丸を高橋から浦安、行徳までかよわせました。東京汽船会社の5トンの小さなポンポン蒸気船は、蛸殻町から砂村の丸八橋と製糖所まで運行しました。

「うるさきもの一銭蒸気行々子」

(ぎょうぎょうし)

尾崎紅葉

大正の頃、小名木川を航行する船は1日に35隻もあったといひます。

小名木川の水運が衰えたのは、鉄道の発達、とくに亀戸から越中島に貨物専用線ができたことです。小名木川駅までできたのは1929(昭和4)年。

小名木川沿岸の工場への原材料の輸送や製品の積み出しは、鉄道、荷馬車、トラックにかわり、1956(昭和31)年には、小名木川を通る船は年間1503隻、1日平均4隻となり、その使命を終えました。

- 行事予定
- 8月3日(日) 8時半・日本生命亀戸ビル前集合
 - 8月4日(月) 6日(水) 原水爆禁止世界大会・広島
 - 8月22日(金) 17時半 消費税なくす江東各界連宣伝・署名行動、東陽町駅西口

概説

江東の歴史 (35)

都教組江東支部・教育研究集会全体会
世界の現場からみる日本の学校・教育・子どもたち

講演にたった金平さんは「親父の転勤が多くて、ようやくクラスになれると転校になるという子ども時代だった。でも学校にはいい思い出がない。あの頃は、クラスに貧乏な子もいたし、お金持ちの子もいた。いろんな子がいたけどとにかく楽しかった。だからいまの教育現場をみてみると、どつてこんな風になつてしまったのだらうという思いが強い」と語りました。

批判。学校教育を学校経営に変え、すべての先生に経営を求め、経営を害するものはやめてはいけないとされる。学校に塾の講師を派遣するなど、公共を民間に解放することによって教育を営利の対象にする。教科書選定などへの政治介入などをあげました。



講演する金平茂紀さん

6月27日、都教組江東支部主催の教育研究集会全体会が行なわれ、金平茂紀さん(TBS「報道特集」キャスター)が「世界の現場からみる日本の学校・教育・子どもたち」をテーマに講演しました。



全日本民医連事務局長の林泰則さんは、安倍内閣が進めている介護保険制度の「改定」の内容と問題点について講演。さらなる困難を利用者・家族、高齢者に押し付ける「予防給付の見直し」など医療・介護総合法の問題点を明らかにしました。

6月22日、江東区社会福祉推進協議会主催の「介護保険はどう変わるのか?」シンポジウムを開き、229人が参加しました。

介護保険はどう変わるのか?

「政治が暴走するなかで、これから、どう立ち向かっていくか。金平さんは「家族や友達など自分の近くにいる人と話していくことが大切。そして違う考え方ももっている人から、どう立ち向かっていくか。金平さんは「家族や友達など自分の近くにいる人と話していくことが大切。そして違う考え方ももっている人から、どう立ち向かっていくか。金平さんは「家族や友達など自分の近くにいる人と話していくことが大切。そして違う考え方ももっている人から、どう立ち向かっていくか。」

今から30年以上も前に「いつか必ず原発事故が起きる。危険な原発は建てさせない」と住民が反対運動を行い、原発計画を断念させた徳島県阿南市椿町の「蒲生田原発」と、和歌山県日高町の「日高原発」。この反対運動に関わった住民にインタビューし、彼らの証言を中心にまとめられた映画です。



トーク対談をするかさこ監督と林田さん

6月28日、ドキュメンタリー映画「シロウオ」原発立地を断念させた町」の上映会がさよなら原発・江東の主催で行なわれ、テイアラこうとう大会議室には100名を超える参加者でいっぱいになりました。

長は介護や福祉サービス、在宅サービスの実情を報告。会場からも7名の方が家族の介護の実情を語りました。

映画「シロウオ」上映会